

植物プランクトン調査状況

松本保健福祉事務所検査課

○ 今年度の調査概要

今年度は昨年度同様、4月、11月から3月までは諏訪湖の水質常時監視時の月1回の採水、5月から10月までは水質常時監視時の採水に加え、その2週間後を目安にもう一度採水（県水産試験場諏訪支場で実施）し、月2回の採水を実施している。

採水方法および測定方法

表層は湖面から水深0.5m、下層は湖底から0.5mで採水した。

採水した試料に中性緩衝ホルマリン液を5%濃度となるよう添加し、静置濃縮した後、「上水試験方法 2011年版 VI. 生物編（日本水道協会）」を参考に、標準計数板を用いて検鏡、計数し、試料1mL当たりの細胞数を算出した。

種類は属レベルまで分類し、藍藻類、珪藻類、緑藻類、鞭毛藻類に分類した。

○ 今年度の結果（現時点の速報値等）

平成31年（令和元年）について、平成30年12月から増加し始めた珪藻類は、更に顕著に増加し、2月にピークとなった。4月には珪藻類の増加は落ち着き、続いて小型藍藻類が優占した。7月後半に大型藍藻類が一旦は優占するも、その後減少した。8月からは緑藻類が顕著に増加し、9月前半にピークとなった。緑藻類が優占したのは10月前半までで、10月後半から11月（現在報告分）まで珪藻類が優占種となっている。

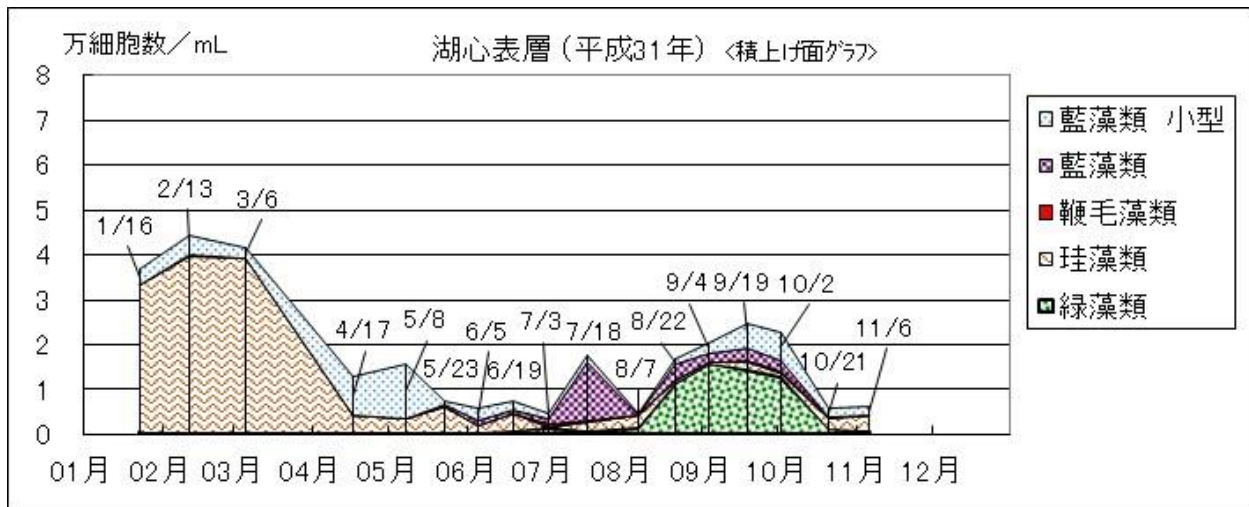


図1 平成31年（令和元年）の湖心表層における植物プランクトン濃度の推移